

日本骨髄バンクの現状（2001年5月末）詳細は別添一覧を参照下さい。

	前月	当月	現在数	累計数
ドナー登録者数	1,302	1,291	137,323	166,218
患者登録者数	113	133	1,535	10,896
骨髄移植例数	42	80	-	3,386

注) 数値は速報値のため次月以降に訂正されることがあります。

① 月間移植数、過去最高の80件に達しました

5月の骨髄バンクを介した移植数は、80件と過去最高の月間移植数となりました。今年に入ってから移植数は303件（昨年同期比11.8%増）と順調な伸びをみせています。ご提供されたドナーの方々、関係者の皆さまのご理解とご尽力に心からお礼を申し上げます。

② 5月のドナー登録者数1291人、登録会は24回。依然低迷傾向

5月のドナー登録者数は1291人で、取消者数は564人、実質増加数は727人という実績で依然、低迷傾向にあります。登録会は24回実施され（うち献血並行型19回）、合計338人の方にご登録をいただきました。都道府県別の登録会の開催数は、沖縄8回、東京6回、山口2回、岐阜1回、茨城1回、神奈川1回、福井1回、兵庫1回、岡山1回、福島1回、宮城1回でした。

③ 厚生労働省「骨髄バンク事業関係者会議」を全国6ブロックで開催へ

6月28日、厚生労働省本館において、関東・甲越ブロックの行政、日本赤十字社・各血液センター、支援団体、財団地区普及広報委員などが参加して「骨髄バンク事業関係者会議」が開催されます。厚生労働省が「低迷しているドナー登録者をいかにして増加させるか、その具体的方法について、関係者が一堂に会して協議しよう」と全国6ブロックで開催するものです。6/28東京を皮切りに、7/6名古屋、7/10仙台、7/23大阪、8/2福岡、8/8広島で開催という日程です。この会議開催により、関係者の相互理解がすすみ、ドナー登録拡大の大きな力となることが期待されます。なお、6月14日（木）開催された政府の副大臣会議において、南野知恵子厚生労働副大臣より「骨髄バンク事業に対する協力依頼について」の文書が提出され、各省庁の本庁舎及び管下の関係機関、団体でのドナー登録、献血と併せての実施などが要請され了承されたとのことです。

4 「骨髄バンク議員連盟」が発足、支援の輪が大きく広がっています

5月29日(火)、衆議院第二議員会館において「骨髄バンク議員連盟」の設立総会が開催されました。骨髄移植に関する諸問題を解決するため積極的に行動することを目的として、平成6年に結成された「骨髄バンクを応援する若手国会議員の会」は、ドナー登録年齢の上限である50歳までの国会議員により構成されていました。卒業議員の方々からの「『若手』の年齢の枠を超えても、骨髄バンクを応援していきたい。骨髄バンクを応援したい議員はたくさんいる」という声が、今回の議員連盟発足に結びつきました。会長には野田聖子衆議院議員、顧問には、森前総理、鳩山民主党党首の二人が就任されました。衆参両院の全会派から約70人の議員が参加されています。骨髄バンク事業のますますの充実のため、より一層のご協力を賜りたいと思います。

5 「コーディネーター」を募集します。多くのご応募を！

日本骨髄バンクを通じて行われた非血縁者間の骨髄移植は3386例を数え、毎年、増加の一途をたどっています。当財団では、コーディネート件数の増加に対応し、一層の充実をはかるため、新規のコーディネーターを養成する「2001年度コーディネーター養成研修会」を開催することとなりました。受講を希望する方は、必ず「ハガキ」で、住所、氏名、年齢、および「コーディネーター養成研修会要項希望」とご記入の上、財団あてに7月31日までにお送りください。募集要項と受講申請書をお送りします。詳細は、財団ホームページ(<http://www.jmdp.or.jp>)にも掲載しています。

5 地区普及広報委員を増員します。ご応募をお待ちしています

30万人ドナー登録目標に向け、ドナー登録を推進する地区普及広報委員の役割は、ますます重要となっています。青森、秋田、宮城、群馬、埼玉、東京、神奈川、富山、三重、島根、高知、熊本、長崎、宮崎などでは委員が不足しているため、地区普及広報委員を補充募集いたします。意欲ある皆様のご応募をお待ちしています。

詳細は当財団事務局までお問い合わせください(TEL 03-3355-5041)。

7 骨髄バンクキャンペーンサイト「ドナーズネット」開設予告

当財団では、7月5日にインターネットでのドナー募集キャンペーンサイト「ドナーズネット」(<http://www.donorsnet.net>)を立ち上げることになりました。広く一般の方々に、骨髄バンクを理解していただき、ドナー登録にまで結びつくよう、インターネットの特性と領域を活用した魅力あるサイトにと企画準備しています。内容は、ドナー経験談や患者さんのドナーを待つ気持ち、ドナーの方への感謝の言葉などを隔週で連載するほか、有名人の方々へのインタビュー記事を毎月連載します。月2回のメールマガジンも企画されています。ご期待ください。

8 韓国骨髄バンク(KMDF)への患者登録基準が変更されました

現在、当財団(日本骨髄バンク)では三つの海外バンク(全米骨髄バンクNMDP、台湾骨髄バンクTCMDR、韓国骨髄バンクKMDF)と提携して、コーディネートを進めています。KMDFに関してのみ、国内にドナーがいなかったことが条件とされていましたが、この制限がなくなりNMDP、TCMDRと同様の条件に統一されました。これにより、国内でのドナーの有無、コーディネート状況に関わらず、日本骨髄バンクに登録の患者さんは、3つの海外バンクへの登録が可能となりました。同時に複数の海外バンクに登録することや、国内ドナーとの並行コーディネートも可能です。ただし、患者負担金については各国骨髄バンクごとにルール・金額などが異なりますので、ご注意ください。

9 「3次検査」は、「確認検査」と呼称が変更されました

ドナー候補者の一人として選ばれ、コーディネート段階でのドナー適格性を判断する、現在の「3次検査」の呼称を「確認検査」と変更することになりました。1997年4月から、それまで1次検査で行っていたA座、B座の検査と、2次検査で行っていたDR座の検査が同時実施されるようになり、3次検査という呼び方は不自然となり、問い合わせも増えていました。当面は、「確認検査(3次検査)」と表記しますが、定着が終わりしだい「確認検査」との表記に統一していく予定です。

10 地区普及広報委員研修会が開催されました

6月14日(木)当財団会議室、16日(土)全労済東京会館(東京・西新宿)において、今年度第1回の地区普及広報委員研修会が開かれました。これまで32人だった地区普及広報委員も、新たに29人の新任委員が加わり61人になりました。研修会には両日あわせて58人の方が参加され、ドナー登録拡大の具体策、献血会場での登録説明と確認を行う説明員の役割、その養成プログラムなどについて活発な論議が行われました。

国際協力事業の状況()、HLA照合サービス状況期間

日本 米国	
米国 日本	
日本 台湾	
台湾 日本	
日本 韓国	
韓国 日本	
その他の国 日本	

* 4半期ごとに掲載です。

お知らせ

「骨髄バンク患者問い合わせ窓口」からのお知らせ

「骨髄バンク患者問い合わせ窓口」(TEL 03-3355-8699)では、6月1日より電話受け付け時間を2時間延長し、10:00~12:30、13:30~17:00といたしました。また、当窓口からお送りしている資料の一部が、財団のホームページでご覧になれるようになりました。これからも、患者さんやご家族の皆様のご要望にそった情報提供をしていくことを心がけたいと思います。

当財団への問合せが激減しています

当財団への問合せが激減しています。各団体や企業、サークル等の機関紙にドナー登録問合せ電話「財団フリーダイヤル0120-445-445」の掲載をお願いします。マスコミ取材の際にも掲載依頼をお願いします。